

市民説明会

富田林市新庁舎建設プロジェクト



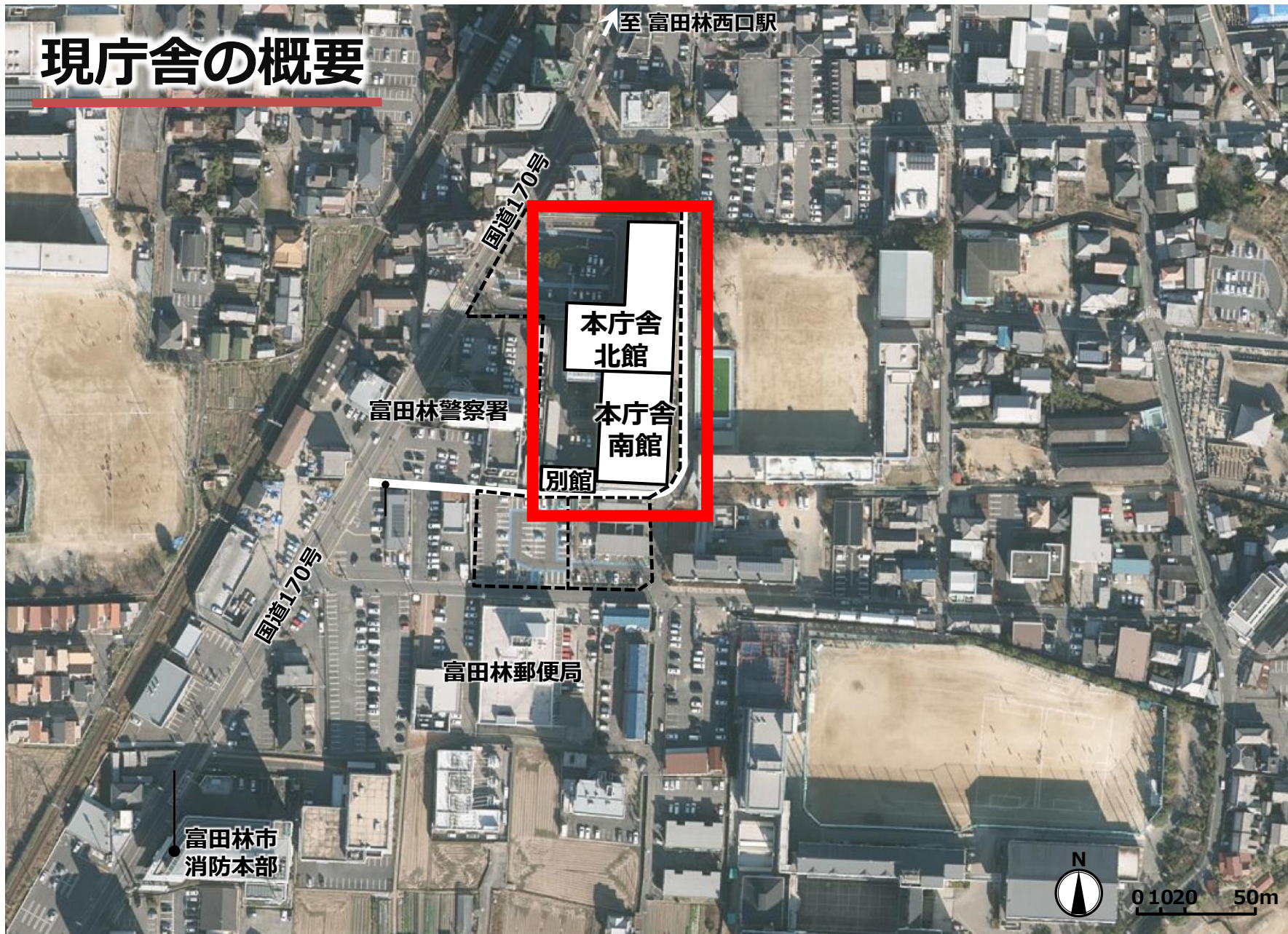
次第

開会

1. 挨拶
2. 新庁舎建設の検討状況について
3. 質疑応答

閉会

現庁舎の概要



現庁舎の概要



<現庁舎の概要>

施設・建物名称		建設年度	築年数	耐震性能	構造※2	階層	延床面積※3	敷地面積※4
庁舎	北館	昭和45年	51年	なし (Is値※10.31)	SRC造	地下1階 地上4階	約6,804㎡	約10,143㎡
	南館	昭和59年	37年	あり	SRC造	地下1階 地上6階	約6,533㎡	
	別館	昭和45年	51年	なし	RC造	地上2階	約294㎡	

※1:ページ下部に記載 ※2:SRC造…鉄骨鉄筋コンクリート造 RC造…鉄筋コンクリート造

※3:北館は昭和59年増築分約335㎡含む ※4:借地等を含む

Is値：地震力に対する建物の強度、靱性（粘り強さ）を表す指数のこと
一般の建物では0.6以上、特に重要な防災拠点として機能する庁舎は、
一般の建物の1.5倍（Is値 0.9）以上が必要とされる

これまでの経過

- 富田林市本庁舎の北館及び別館は、昭和45(1970)年の竣工から**49年**が経過、南館は昭和59(1984)年の竣工から**35年**が経過している。

平成18(2006)年 ・ 耐震診断を実施し、北館・別館が**現行の耐震基準を下回る結果**となったが、市の公共施設全体を考え、小中学校・幼稚園・保育所等他の公共施設の耐震改修を優先して進めてきた。

平成29(2017)年 ・ 市本庁舎耐震調査を実施し、「市庁舎耐震調査業務調査報告書」をまとめたことで、**庁舎北館の耐震性能の不足を再確認**したことに加え、配管や設備の老朽化など、多くの課題点を把握した。

耐震性能の不足

地震に対する建物の強さを表すIs値は**0.31**であり、一般的な建物で0.6以上、防災拠点として機能する庁舎は0.9以上が必要とされる中、大きく下回っている。

施設・設備の老朽化

庁舎の全ての設備や配管の老朽化が進んでいる。



古くなった配管内部の様子



浸水時における対応のようす

これまでの経過

- 平成30(2018)年 • 「富田林市庁舎耐震化庁内検討会議」を設置し、新庁舎の整備方法や耐震補強の可能性等について、「富田林市庁舎耐震化庁内検討会議報告書」にまとめた。
- 令和2(2020)年 • 「富田林市庁舎整備基本計画策定委員会」を設置し、現庁舎の課題や、庁舎整備の必要性、基本理念・基本方針、整備方法や事業手法などをまとめた「富田林市庁舎整備基本計画」を策定した。
- 令和3(2021)年
設計に着手 • 設計業務に先立ち、建設コストを縮減することにより将来の財政負担を軽減するため、一部の部署をすばるホールや消防庁舎等に本移転し新庁舎のコンパクト化を図ることとした。



この方針についてはさまざまなご意見をいただきました

- 令和4(2021)年 更なるデジタル化や、テレワークの普及など、新庁舎完成までに業務改革を進め、庁舎のコンパクト化を図りつつ、すばるホールや消防庁舎へは仮移転とし、新庁舎に移転部署を配置する方針へ。

公共施設への一時的な行政機能の移転

新庁舎の現地建替えについては、現庁舎の北館部分に新たな庁舎を建てるため、限られたスペースの中での業務継続が課題となります。

⇒本市では、一般的な手法のひとつである仮庁舎の建設について、コスト削減の観点から行わず、すばるホールなどの既存の公共施設を活用することとし、そのために一時的な行政機能の移転を行います。

移転先・対象部署（現時点での予定）

◇すばるホール

道路交通課、農とみどり推進課、住宅政策課、都市計画課、商工観光課、金剛地区再生室、下水道課、文化財課、農業委員会事務局

◇消防庁舎

市議会、議会事務局、総合事務室

◇市送配水管理センター（甲田2丁目12の44）

上下水道総務課、水道工務課

※「水道お客様センター」は引き続き庁舎内に配置予定です。

◇南河内環境事業組合 資源再生センター（大阪狭山市東池尻6丁目1622の1） 環境衛生課（ごみ収集部門のみ）

めざす新庁舎の特徴～5つの基本方針～

基本
理念

人・自然・歴史・文化を次世代につなぐ
富田林の創生拠点

基本方針1

わがまち富田林・まちづくりの核となる
～市民が主役となり、誇りを持てる庁舎～

基本方針2

地域と市民を守る
～災害に強く、安心安全な庁舎～



基本方針3

すべての人にやさしい
～分かりやすく、使いやすい庁舎～



基本方針4

自然環境に配慮する
～環境と共生する庁舎～



基本方針5

将来の変化に柔軟に対応できる
～経済的で合理的な庁舎～

新庁舎の概要（案）

- ・ 北館、南館を含めた現地での全面建て替えとする。
- ・ 免震構造
 - ※建物と基礎の間に、積層ゴムをはじめとする部材を入れた免震層を設け、地震による揺れが直接建物に伝わらないようにした構造
- ・ 地上5階、地階1階
 - ※最上階（機械室など）を除く
- ・ 計画延べ面積は1万2365.6㎡
 - ※地下駐車場、屋根付き駐車（輪）場などを除く

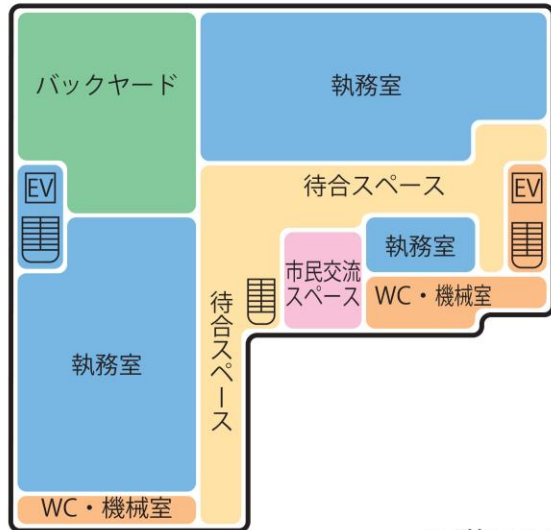
新庁舎のプランについて



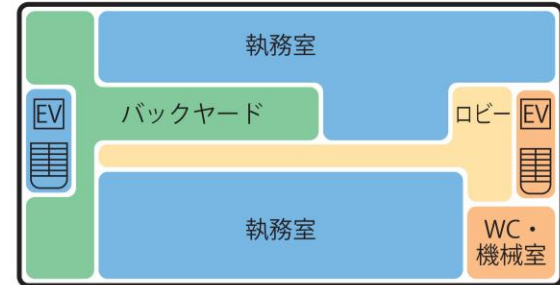
1階平面イメージ



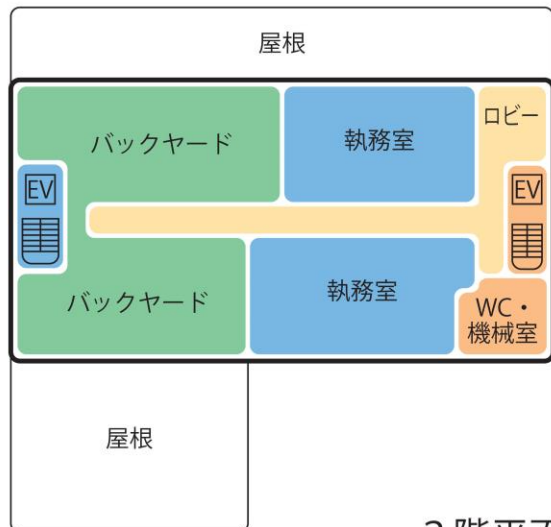
新庁舎のプランについて



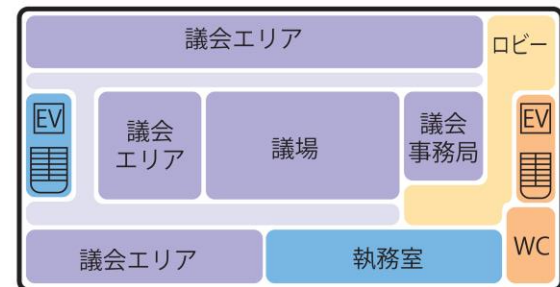
2階平面イメージ



4階平面イメージ

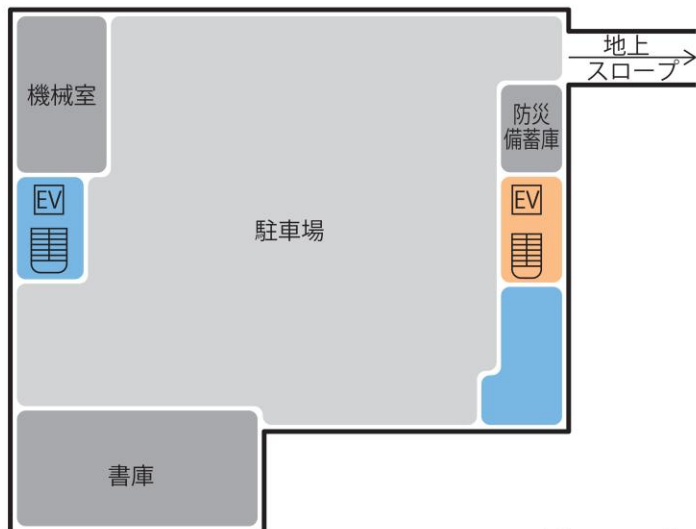


3階平面イメージ

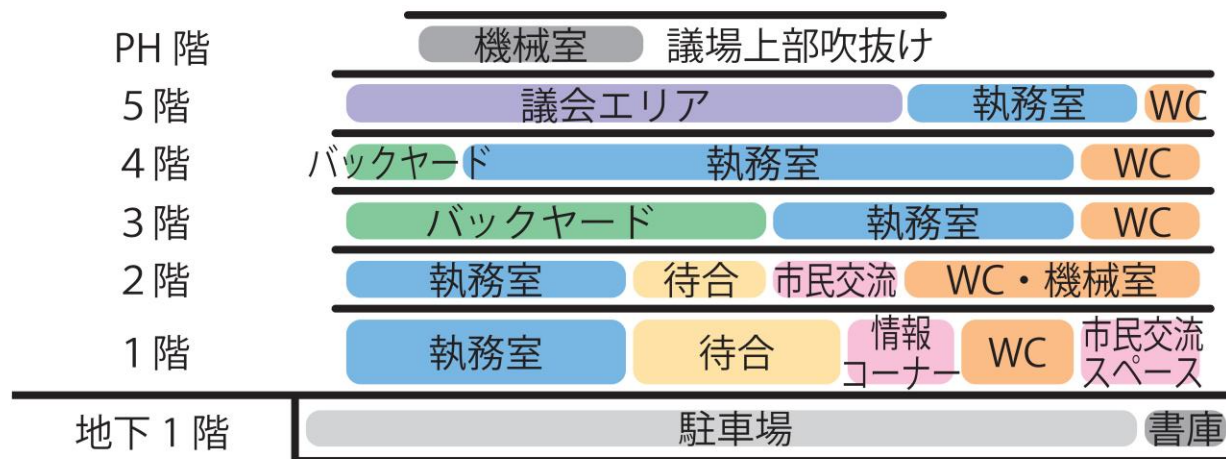


5階平面イメージ

新庁舎のプランについて



地下1階平面イメージ



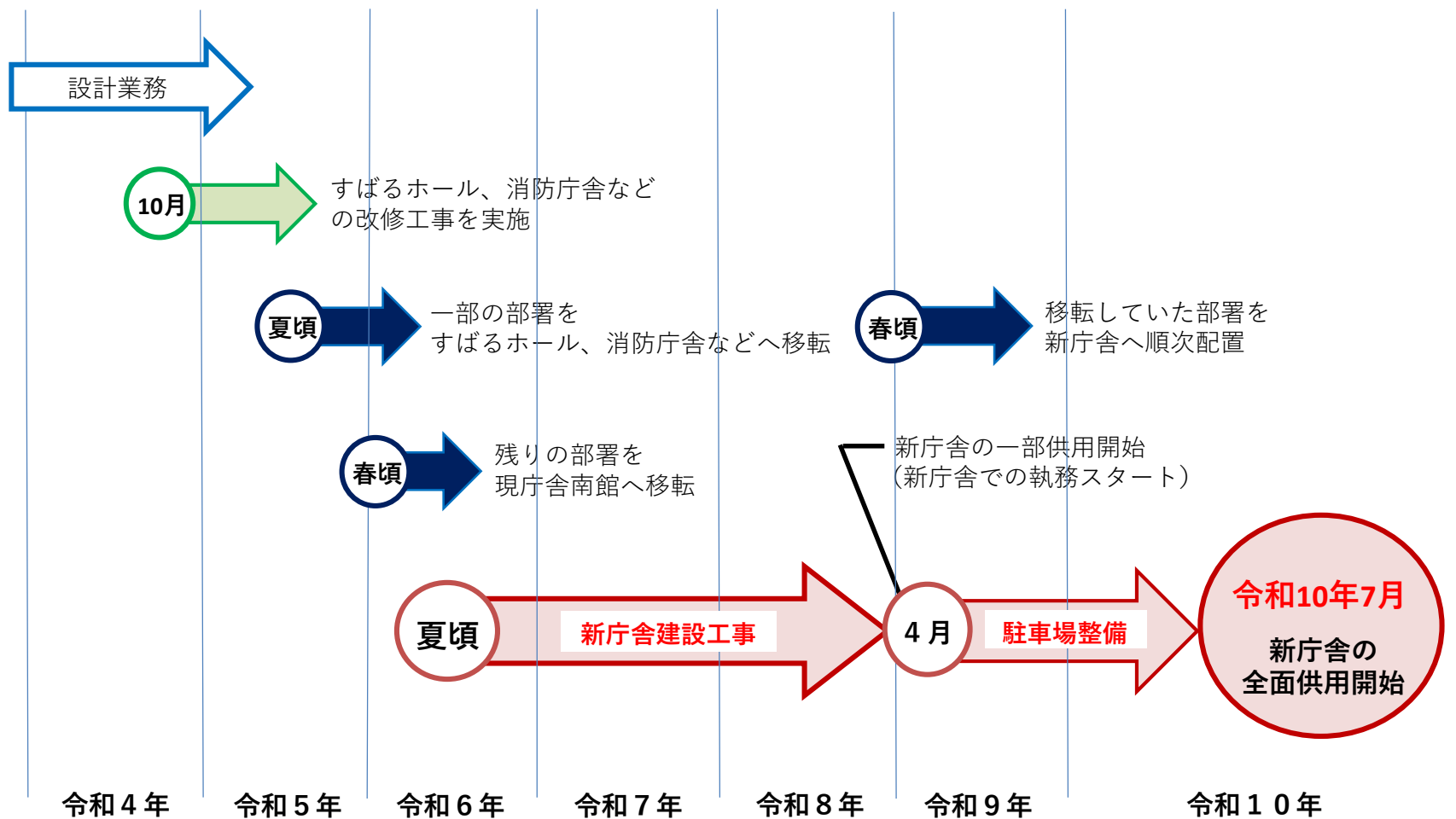
断面イメージ

概算コスト

	費目	コスト
事業費	本体工事費	約 67.9 億円
	駐車場工事費	約 1.1 億円
	附帯工事費（外構工事など）	約 2.6 億円
	解体撤去工事費	約 7.5 億円
	移転先改修工事費	約 1.3 億円
	その他関連経費（調査・設計監理・移転・備品・建設支援事業）	約 11.4 億円
	計	約 91.8 億円

※財源については、地方債の発行と基金の活用を想定しています。

新庁舎建設スケジュール



これからの取り組み

- 1.市民の皆さまの利便性確保
- 2.大規模災害への対応
- 3.行財政改革の推進と市民サービス